

2019年度 社会連携研究プロジェクト活動報告書

2020年05月28日

和光大学地域連携研究センター
センター長 小林 猛久 殿

代表者氏名 小林猛久

研究プロジェクトの名称 「地域デザイン」を基盤とした、次世代のための異質力育成プログラムの開発				
研究目的				
プロジェクト所属メンバー (氏名の右の欄に、本学専任教員=教、共同研究員=共と記入してください。)				
倉方雅行	教			
小関和弘	教			
堂前雅史	教			
山田 貢	共			

<p>研究活動の経過 (800字以内) (打ち合わせ、報告、招待講演、調査旅行などの月日、テーマ、報告者、目的地などを記入してください。)</p> <p>2019年11月2日(土) 岡上てらこや事業と連携した、親子いもほり体験会を実施 担当 小林、山田、学生10名。 学生が育成してきたサツマイモの収穫体験。学生たちが、植え付けから収穫までの工程を説明し、参加した子ども達の収穫をサポートした。体験参加した子ども岡上小学校の児童10名(小学生以下)、付き添いの保護者など10名。</p> <p>2019年12月21日(土) 万福寺人参品評会参加 (主催: 里山フォーラムin麻生/麻生区生涯学習支援課) 参加学生5名、参加メンバー 小林、山田</p> <p>2020年第七回かわさき都市農業活性化フォーラムで、研究活動成果発表。 参加学生6名、担当 小林、山田</p> <p>毎月、第1金曜日の18:30から20:00 岩本、堂前、倉方、山田、小林、他 岡上地域の方々 和光大学と岡上地域の発展や教育などの連携に関する相談会を開催。 研究担当者以外にも、適宜岡上地域の住民の方と情報交換を行った。</p>
--

研究成果の概要（1200字程度）（どのような方法で調査、研究を行ない、どのような新知見が得られたか。またそれを今後どのように活かすことができるか、など）

地域デザイン以外の科目、例えば「タウンマネジメント」（共通教養科目）では、小田急鶴川駅の安全利用プラン作成から、実際に学生が鶴川駅の清掃活動をしながらか安全見守り活動を実施したり、鶴川駅と周辺地域の風景を使ったモザイクアートを作成し、駅の安全・安心な利用を啓もうするなど、多様な実体験型学習を実現することにより、学生の学習意欲の向上や地域経済の活性化の有効性を大きく示すことができました。これは、これまでの共通教養科目「地域デザイン」の授業活動を基盤とした地域の農業生産法人との連携による社会と教育現場が融合した人材育成システムの構築や地域活性化へ貢献するシステムを発展させることによる成果と言える。

特に、それらの成果を、第七回かわさき都市農業活性化フォーラムで多くの観衆の前で発表することができ、そのことをメディアでも取り上げられ、反響が大きかった。

また、大学が所在する地域である岡上の活性化を図るためにNPOの設立が実現し、芸術学科が取り組んできた黒川アート散歩の「岡上」版や鶴川小学校の寺子屋事業（川崎市が開催予定）の運営支援などのほか、様々な地域活性化に役立つ学生、教職員の活動を実施できた。

また、岡上分館の市民自主企画による「花の育成を通じた地域活性化事業」や子育て支援事業（サツマイモ収穫体験）は、次年度も開催が決定している。さらに、本成果について、町田市でも興味を示してくれている。その中から、町田市の公園緑地課より、正式に香山緑地の再開発に関する改善提案（都市公園としての魅力あるイベント、施設づくりなど）に関する要請があり、「タウンマネジメント」の前期の活動テーマとして取り組むことが決定した。

こうした地域連携・人材育成プロジェクトを定着させ、全学的なシステムへと拡大し、それを恒常化させることにより、和光大学の異質力育成プログラムとして完成をさせたいと考えている。

成果の発表文献（標題、著者名、雑誌名、巻号頁、発行年等）

（発行年は厳密に2019年4月～2020年3月に刊行されたものだけに限らず若干前後のものも含めてください）

※ 用紙が足りない場合は別紙を添付してください。

※ できるだけこのデータに入力いただき、Eメールでご提出ください。

※ 提出期限：2020年4月30日（木） 提出先=企画室企画係(岡本) kikaku@wako.ac.jp(企画係)